

〔曲名〕 Fiocchi di Neve

雪がチラホラ

〔曲種〕 mazurka

〔作曲者〕 Amedeo Amadei

アメディオ アマディ

〔整曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

1908年、同じボローニヤのヴィタ・マンドリニスティカ1号に発表されたマズルカで、作品226番、編成も“古風なセレナータ”と同じ形であるが、

埋もれた儘（まま）では惜しいので、低音楽器を加えて補作した。

丁度この時期にアマディは、この誌の主幹に就任していたので多くの自作が登場している。

原作にはピッキングは指示されていないが、随所に同音を二度つつ打って運ぶところがある。

此処は如何にも雪がチラつく様子を偲ばせて好ましいが、安易にピックの打掬交互の弾き方を避けたい。打のみで運びたいのである。

元来マンドリンでは短い音の連続はピックの打掬交互使用が常套になっているが、打掬には音色に表裏強弱がありすぎるので、

私は可能な限り打の連続でありたいと思っている。

クレッシェンドにしてもディミヌエンドにしても打の連続であれば巧妙に運ぶことが出来るが、ピックを打掬交互に運ぶと掬音の弱さに波が生じて、

Cresc. も Dim. も円滑な表現が出来にくいのである。

絃に対するピックの角度にもよるが、所謂“平行奏法”でも、本曲の場合は打のみでありたい。

まして本曲は、そこに特色があるのであるから。

これも前曲（古風の・・・）同様編曲ではない。

1993年 2月 発行

マンドリン合奏曲集2集 (JMU版 パート譜付) より